

新機能と更新情報

・新機能と更新情報 (1ページ)

新機能と更新情報

次の表は、この最新リリースまでのガイドでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、 今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: Cisco APIC リリース 5.2(4) の新機能と変更情報

特長	説明	参照先
DHCP サーバー設定	DHCP サーバー ポリシーを設	コア ACI ファブリック サービ
	定するときに、[DHCP サー	スのプロビジョニング
	バー設定(DHCP Server	
	Preference)] オプションを使	
	用して、このプロバイダーの	
	管理設定値を選択できるよう	
	になりました。リーフ スイッ	
	チは、このフィールドの値を	
	基に、クライアントVRFまた	
	はサーバーVRFのどちらから	
	DHCP リレー パケットをルー	
	ティングするかを決定しま	
	す。	

特長	説明	参照先
DHCPv6 オプション 79 のサポート	DHCPv6 オプション 79 を含むように DHCP リレーエージェントとして設定されているブリッジ ドメインを、設定できるようになりました。オプション 79 が有効になっている場合、ブリッジ ドメインがリレーエージェントとして設定されているリーフスイッチには、DHCPv6 リレーパケットのオプション 79 を介してクライアントのリンク層アドレスが含まれます。	
ssl が syslog メッセージのトランスポート プロトコルのオプションに追加された	` '	管理

特長	説明	参照先
MCP ストリクト モードのサポート	MCPストリクトモードでは、 MCPが有効なポートが稼働している場合、データトラフィックが受け入れられる前に、リンクにループがないかどうかがチェックされます。	コア ACI ファブリック サービ スのプロビジョニング
	[誤配線作成プロトコルイン ターフェイス ポリシー (Creating a Mis-cabling Protocol Interface Policy)]の GUI は、ストリクト モードを サポートするよう更新されま した。	
電磁場干渉に対する再トレーニング	電磁干渉(EMI)再トレーニング機能により、電磁干渉からのリンク上のノイズのフィルタリングを行い、リンクフラップを回避するようにリンクを再トレーニングできます。データセンター環境に大量の EMI ノイズが存在する場合は、EMI 再トレーニングを有効にしてください。	電磁場干渉に対する再トレーニング

表 2: Cisco APIC リリース 5.2(3) の新機能と変更情報

特長	説明	参照先
不正/COOP例外リストについて	不正/COOP 例外リストを使用すると、エンドポイントが不正としてマークされる前に、不正エンドポイント制御によるエンドポイント移動の許容度を高くするエンドポイントを指定できます。不正/COOP 例外リストのエンドポイントは、10 分以内に3000 回以上移動した場合にのみ不正としてマークされた後、学習を防ぐためにエンドポイントはプートが学習を防ぐためにエンドポイントは30秒後に削除されます。	

表 3: Cisco APIC リリース 5.2(1) の新機能と変更情報

特長	説明	参照先
L3Out EPG での EPG 内コント ラクトのサポート	EPG 内コントラクトは L3Out EPG でサポートされます。ア クションは[許可 (permit)]、 [拒否 (deny)]、または [リダ イレクト (redirect)]です。	

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。